

2023年度 亶理町地域おこし協力隊 活動報告

亶理町地域おこし協力隊 魚住英司

2024.03.31

01 自己紹介

02 2023年度の活動方針

03 2023年度活動報告

03-1 亘理町の魅力の発掘・情報発信

03-2 アート作品の配布による地域住民の文化醸成

03-3 活動報告展示

04 来年度の活動計画

01 自己紹介

魚住 英司 EIJI UOZUMI

Creative Director

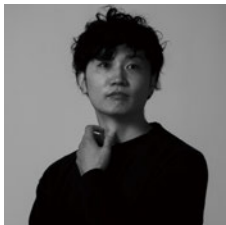
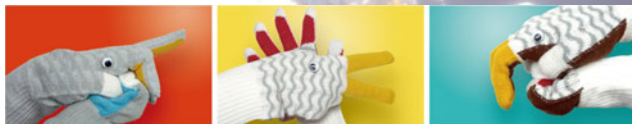


photo by Keita Yamamoto

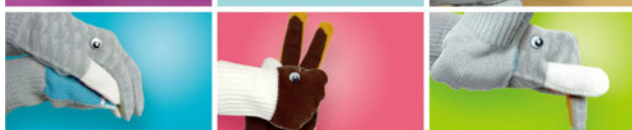
(左上) 「One. C3」 2021
久保田 沙耶共同制作



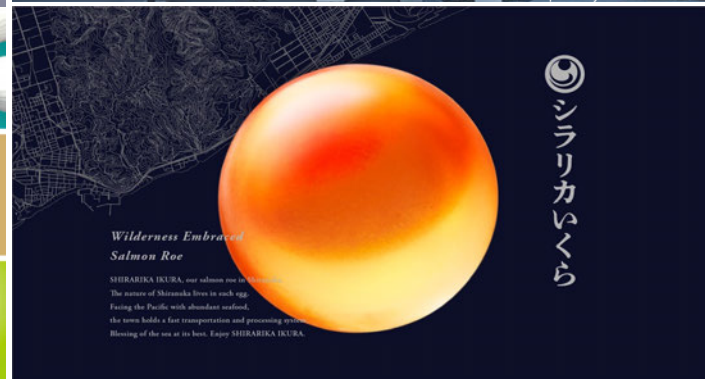
(右上) 「アート格納庫M」 2024
TATERU.org
久保田 沙耶共同制作



(左下) 「Hanzoo!」 2018
Product lab.



(右下) 「シラリカいくら」 2023
playknot
クリエイティブディレクション



クリエイティブディレクター/一級建築士。1988年、兵庫県神戸生まれ。九州大学大学院 人間環境学府 建築学専攻 修了。総合広告会社、デザインファームを経て、独立。TATERU.orgを主宰。デザインの視点からビジネス・ブランド・プロダクト・空間などの戦略立案やコンセプト開発に従事。一貫したコンセプトに基づいた立体的なコミュニケーションデザインをベースに、複数の領域を横断したクリエイティブ開発を得意とし、2023年より北海道白糠町商品のブランド開発を担当。並行してデザインとアートに関する制作・研究活動を行なっている。JPMクリエイティブアワード / 金賞、Tokyo Midtown DESIGN TOUCH / 出展、Milano Design Week Tokyo Award / 選出など。

02 2023年度の活動方針

2021, 2022年度は久保田隊員の協力者として地域おこしの活動に取り組んできました。
2023年度からは自身も協力隊員となり、より積極的に活動に取り組むことになりました。

2021, 2022年度

亘理町で出会った方々にお話を聞き
作品テーマをリサーチして制作。



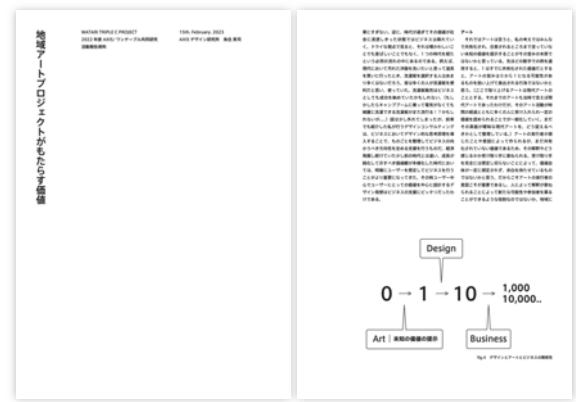
2021, 2022年度

久保田沙耶隊員と郷土資料館にて
プロジェクト過程の展示を実施。



2022年度

地域アートプロジェクトがもたらす
価値についてドキュメントを作成。



クリエイティブディレクターとしてのデザイン視点を導入して地域を見つめ、テーマを発掘し作品制作を行うことで地域資源の発掘・情報発信を主軸として活性化を目指す。

地域資源及び特産品の発掘、開発及び販売促進

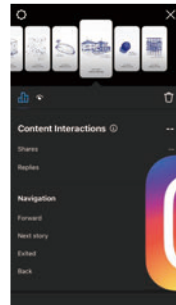
地域資源を活用した体験コンテンツの創造

地域の情報発信

亘理町での生活の発信、作品の展示発表

地域の活性化

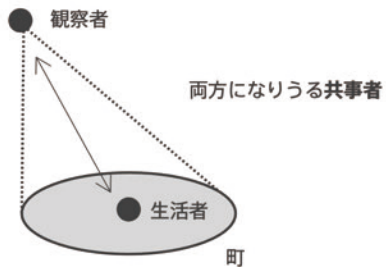
作品を介した地域住民とのコミュニケーションの活性化
他地域からの集客



亘理町での生活と客観的な視点のそれぞれ大事にし、作品制作過程・その後の反響まで含めたプロセス全体をプロジェクトと捉え、地域の文化資源に貢献をする。

Point 1

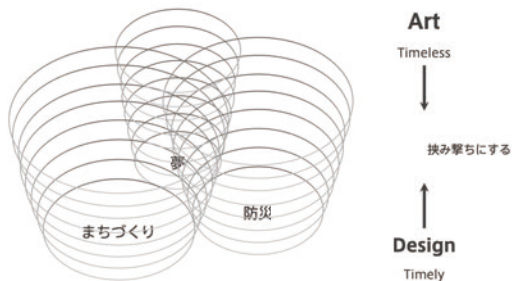
地域に入り込んだ生活者の視点と、よそ者である観察者の視点を行き来する共事者として客観性を持つ。



当事者でも非当事者でもある共事者

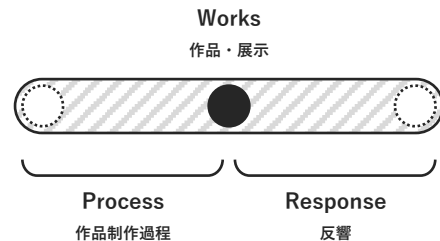
Point 2

久保田隊員の持つアートの視点と、魚住の持つデザインの視点双方を導入して地域を多角的に捉える。



Point 3

作品や展示単体を成果として捉えず作品制作過程・反響を含めたプロセス全ての現象を成果とする。



03 2023年度活動報告

1

巨理町の魅力の発掘・情報発信

地域資源及び特産品の発掘、開発及び販売促進

地域の情報発信

2

アート作品の配布による地域住民の文化醸成

地域資源及び特産品の発掘、開発及び販売促進

地域の活性化

3

2023年度活動成果報告

地域の情報発信

地域の活性化

KEIKA BOOKの制作

日々の活動の記録と作品制作

(仮)巨理のくらしを楽しむきっとキット制作

作品制作と地域住民とのコミュニケーション(2024年度までの2年間のプロジェクト)

郷土資料館での展示「未来の収蔵品」

プロジェクトの進捗共有と情報発信

KEIKA BOOKの制作

企画概要

2023.04 時点

[Why]

巨理町での隊員としての心情変化や生活を記録するために、

[When,Who]

巨理での生活で感じた魅力や心情を1つの絵と一言で表した絵日記を制作し、
巨理町での経過を町民の方も辿れるようにする。

[What,How]

100ページほどのマスターピースを装丁するとともに、
地域住民・町外の方も見るできるようにSNSで都度発信を行う。

[Where]

制作した作品はイベントで展示を行う。まるごとフェアもしくは悠里館での展示を想定。
久保田との活動報告と合わせて同時期に制作したものとして共に発表の場を設ける予定。



photo by Asumi Kuroda

KEIKA BOOK

制作：2024

素材：珪化木、樹脂、ミクストメディア

※2024/02/24~2024/05/12 郷土資料館にて展示

亙理町でアートプロジェクトに取り組むにあたって最初に考えたことは、自身と亙理町との重なりについてだった。私は兵庫県神戸市出身で、6歳のころ阪神淡路大震災に被災し、そこから18歳まで神戸に住んでいた。被災したのが幼い頃だったことや幸いにも、親族への影響が少なかったこともあり、「そういえば、自分も被災者だった。」と思うくらいにその感覚が薄れていたことに気が付いた。忘れることは良い側面もあるし、悪い側面もあると思うが、亙理も神戸も、日本にいるかぎり自然災害とは常に背中合わせだ。そんな中でどう暮らしていけるだろうか。暮らしの中に見つめ直すべきものがあるように感じた。

亙理町に新しく居を構えてまず何をしようかと考えた時に、日々どんなことを感じたのか記録していった方がいいのではないかと思った。記憶は薄れ、良いことも悪いことも忘れていく。特に記憶力が悪い私に、「それって、逆にいうと今を生きているってことだね。」と久保田は言ってくれた。であればと、1日1枚 今、自分が心を動かされたこと、初めて知ったことや感じたことを一

言を添えた絵日記にして、暮らしの経過として残すことにした。

珪化木とは、樹木が化石になったものだ。木の化石には他にも石炭があるが、石炭は木から水分が抜けて炭素だけになったもののことを言い、別名を炭化木という。一方、珪化木は樹木の細胞が地中で長い時間をかけて珪素に置換されたもので、樹木の組織を残しながらゆっくりと珪化していく。

自分が感じた日常の中にあるキラッと光るものが、もしかしたら誰かも同じように感じたり、気づきになることもあるのではないか。正真正銘、亙理町の暮らしの中での体験ではあるが、場所も、時間も、超えて残っていくものかもしれない。時間の積み重ねが生み出した美しい珪化木に思いを馳せながら、自分が過ごした時間を結晶化していく。

2024年2月 魚住 英司

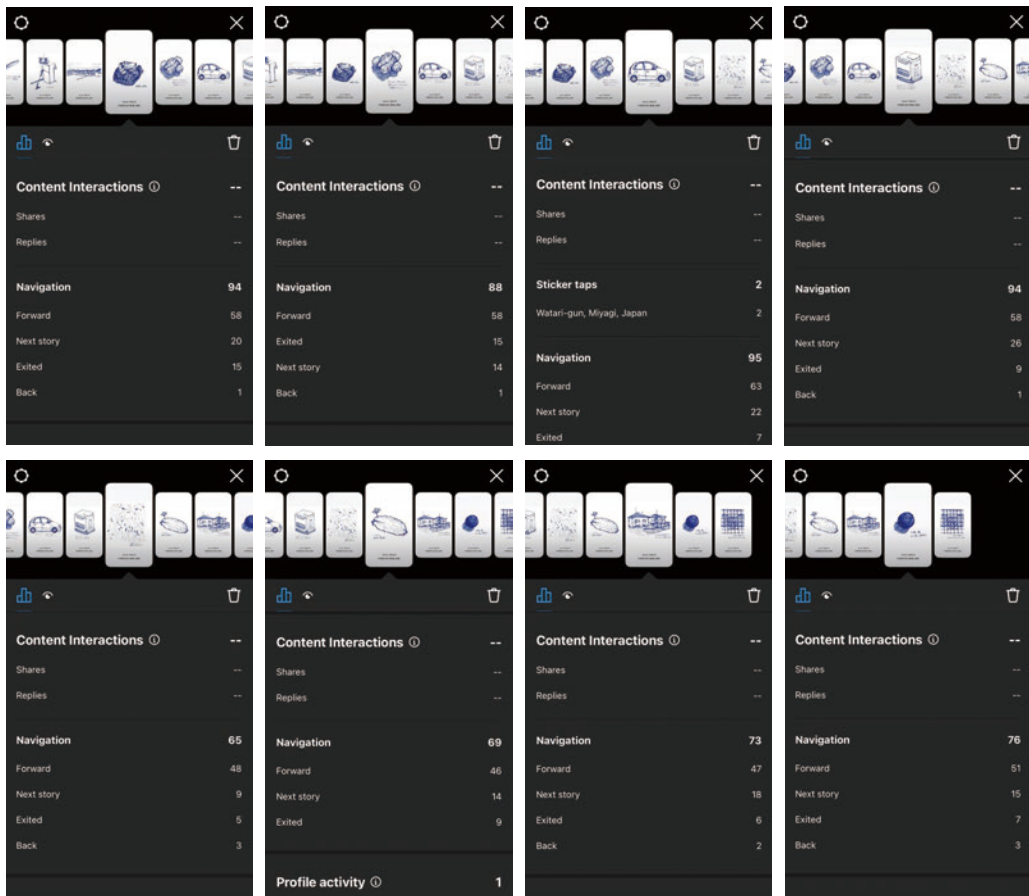


KEIKA BOOK 写本

制作：2024

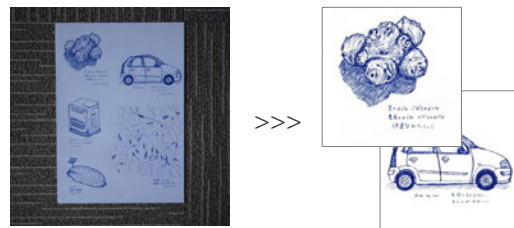
素材：紙

郷土資料館での販売を検討中。
 また来期、ふるさと納税の返礼品
 にするなど、町外の方への対外的
 な発信につながるような取り組み
 にできればと考えています。
 (関係各所と要調整)



KEIKA BOOKの基となる「亘理絵日記」の原画をスキャンし、画像処理した上でアーカイブという形で自身のInstagram (@eijiu_ty)で発信。

※継続して発信中



投稿数

60

総リーチ

4,843

総インプレッション

5,002

※2024年3月28日時点

(仮)亶理のくらしを楽しむきっとキット制作

企画概要

2023.04 時点

[Why]

亶理の魅力や楽しみを表現するために、

[What]

入念に地域のリサーチを行い亶理町で体験できることが詰まったキットまたは絵本を制作。

[Who,How]

制作した作品は住民への配布を通して地域の魅力を、まずは住民から感じてもらう。

(数量は50個程度検討)。美術館で見るアートではなく、暮らしの中で楽しむことができる作品を制作し文化醸成に寄与する。

[Where, When]

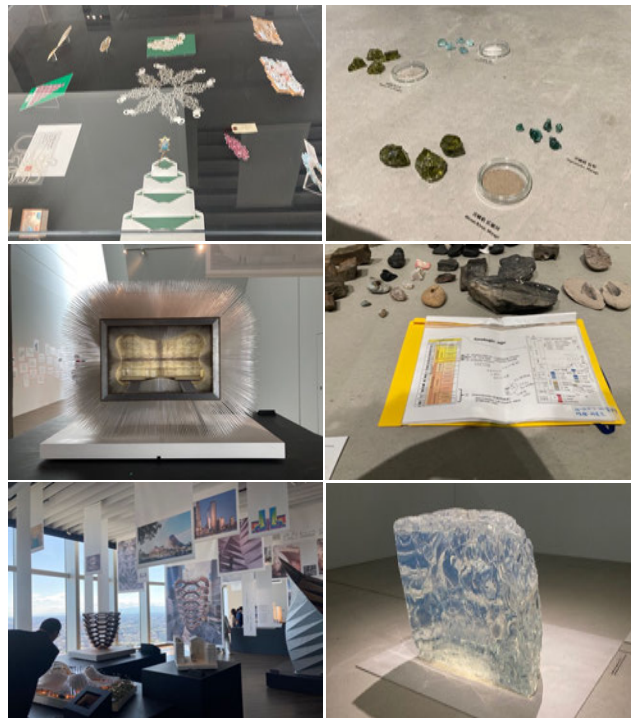
久保田との協働で2年間の制作期間を用い、最終的にリサーチの対象である神戸と亶理の両地区での完成巡回展やトークショーを実施する。

2023年度は亘理町内外から亘理町を多角的に見るようなリサーチを重点的に行い、作品制作につながるプロトタイプやアイデアを検討してストックしていく。

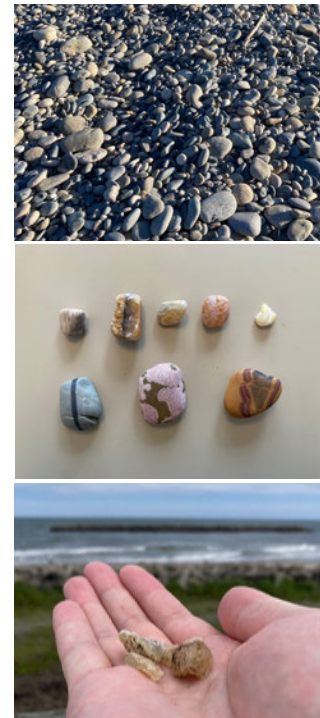
農業体験を通じた特産品のいちごのリサーチ



成果物の展示方法のリサーチ



石材種のリサーチ



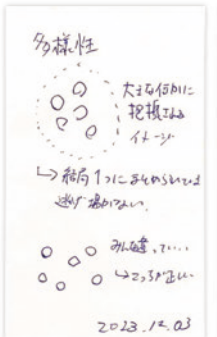
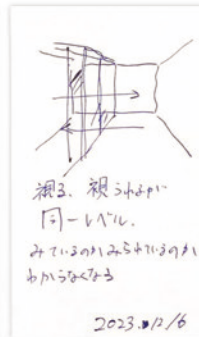
2023年度は亙理町内外から亙理町を多角的に見るようなリサーチを重点的に行い、作品制作につながるプロトタイプやアイデアを検討してストックしていく。

心の減災を考えるキメラの製作と1997年ごろに製作したガゼル



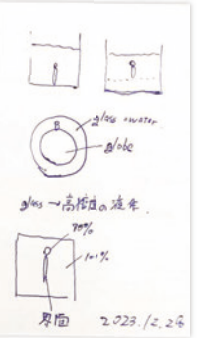
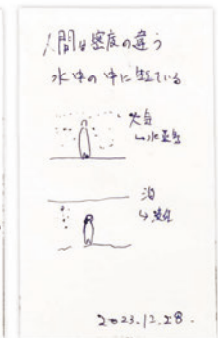
リサーチ内容をもとに検討しているアイデアスケッチ(一部抜粋)

人がいなくなる
それか通らぬ。
ルネサンスの
石の彫刻の
Work in Kuroda
同じです
—自然の
その
アートの
彫刻の



も
「
か
合
→
人
生
生
左
起

2023.12.09



2 アート作品の配布による地域住民の文化醸成_活動一覧

リサーチ文献	ひらく美術: 地域と人間のつながりを取り戻す (ちくま新書)
	野生めぐり: 列島神話の源流に触れる12の旅
	手の倫理 (講談社選書メチエ)
	Weの市民革命
	美術手帖 2020年 10月号
	森は考える——人間的なるものを越えた人類学
	バカと無知 (新潮新書)
	行政とデザイン 公共セクターに変化をもたらすデザイン思考の使い方
	何もしない
	神経美学: 美と芸術の脳科学 (共立スマートセレクション)
	観察の練習
	路上観察学入門 (ちくま文庫)
	自閉症の僕が跳びはねる理由 (角川文庫)
	世界を一枚の紙の上に 歴史を変えたダイアグラムと主題地図の誕生
	Newtonライト2.0 光のしくみ (ニュートンムック)
	広告 Vol.417 特集: 文化
	新復興論 増補版 (ゲンロン叢書)
	暇と退屈の倫理学 (新潮文庫)
	スピリチュアルズ 「わたし」の謎
	美術手帖 2024年 01月号 [目 [mé]]
	美術の物語
	ザ・ネイチャー・オブ・オーダー 建築の美学と世界の本質 生命の現象
	ベニクラゲは不老不死 一永遠に若返るスーパー生物のなぞ
	広告 Vol.413 特集: 価値

フィールドリサーチ	亶理町 荒浜海岸
	亶理町 阿武隈川流域
	亶理町 いちご団地農業体験
	亶理町 鳥の海
	宮城県 太平洋沿岸
	兵庫県 中央区沿岸
	兵庫県 KIIITO
	兵庫県 塩屋
	福島県 太平洋沿岸
	宮城県 阿武隈山脈
	ヘザウィック・スタジオ展: 共感する建築
	「Material, or」展
プロトタイプ制作	心の減災 キメラ制作
	心の減災 透明の木
	心の減災 自然の抽象化
	心の減災 生命の折紙
	生命の封入 文鳥の卵の樹脂封入
	生命の封入 花の封入
	生命の封入 珪化木の封入
	生命の封入 瑪瑙の封入
アイデアスケッチ	多数

郷土資料館での展示「未来の収蔵品」 2024.02.24 ~ 2024.05.12

2023年度のプロジェクト進捗報告として郷土資料館の第26回収蔵品展と同時開催という形で「未来の収蔵品」展示を実施。巨理町の方々に見ていただける機会を作ると同時に町外の方との接点を創出した。



(左)
会場全体

(右上)
KEIKA BOOK

(右下)
防波堤のこちら側の海の
きらめき(真珠の布)
実験

第26回
収蔵資料展

地域おこし協力隊員・久保田雅貴の作品展示
同時開催 **未来への収蔵品**

開催期間
令和6年2月24日(土)～5月12日(日)
午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

観覧料
無料

直理町立郷土資料館
〒989-2351 宮城県直理郡直理町字西郷140番地
☎0223-34-8701 URL: <https://www.town.watarimiyagi.jp/>



告知チラシ

直理町地域おこし協力隊 KEKA BOOK 協力隊だより

地域おこし協力隊として町に暮らし、それぞれの拠点から町おこしに取り組み、隊員たちの日々の活動をお届けします。

曲任雅貴の SNS

久保田雅貴 直理町立郷土資料館 学芸員

「収蔵資料展」観覧のご案内

期間：令和6年2月24日(土)～5月12日(日)

収蔵資料展は、郷土資料館に収蔵されている資料を常設展示ごとに一括展示する展覧会です。

今回の展示資料は、令和2年度に寄贈された資料107点です。直理伊達家史伊達邦彦の書や衣食住に関する資料、小中学校で使用された教科書や卒業アルバムなど皆様の暮らしを伝える品々も展示します。

直理伊達家の歴史を伝える品々や、人びとの生活を伝える品々もつとむのなつかしい品々から現在との違いを見つけ、楽しみながらご覧ください。

同時開催「未来への収蔵品」

直理町地域おこし協力隊として活動しているアーティストの藤原真由氏、久保田沙希氏は2022、2023年に郷土資料館で作品の展示をし、今期も展示を行います。直理町で暮らす中で出会った人・風景・歴史をも感じたいことと大事にしたいことをアーティストという形で表現するプロジェクトに取り組み、今回の展示ではそのプロジェクトの過程を共有する場としています。

プロジェクトを通して「今の直理町」を見ていく視点で、「この先もしかりた郷土資料と呼ばれるようになるかもしれない、未来の収蔵資料になるかもしれない」ということを思い、ぜひ皆様の身近な暮らしの中にあるかきめを展示から感じてみてください。

→収蔵品の中にも動物のぬいぐるみ(真由の布「演劇」) 動物のぬいぐるみ、ワンダーランドの動物展覧会

◆期間中の休館日
2月26日
3月4・11・18・20・25・29日
4月1・8・15・22・26日

◆駐車場
館裏側の北側にあります。

直理町立郷土資料館 〒989-2351 宮城県直理郡直理町字西郷140番地
Tel 0223-34-8701 URL: <https://www.town.watarimiyagi.jp/>

広報わたり (3月号)

直理町地域おこし協力隊 KEKA BOOK 協力隊だより

地域おこし協力隊として町に暮らし、それぞれの拠点から町おこしに取り組み、隊員たちの日々の活動をお届けします。

曲任雅貴の SNS

久保田雅貴 直理町立郷土資料館 学芸員

「収蔵資料展」観覧のご案内

期間：令和6年2月24日(土)～5月12日(日)

収蔵資料展は、郷土資料館に収蔵されている資料を常設展示ごとに一括展示する展覧会です。

今回の展示資料は、令和2年度に寄贈された資料107点です。直理伊達家史伊達邦彦の書や衣食住に関する資料、小中学校で使用された教科書や卒業アルバムなど皆様の暮らしを伝える品々も展示します。

直理伊達家の歴史を伝える品々や、人びとの生活を伝える品々もつとむのなつかしい品々から現在との違いを見つけ、楽しみながらご覧ください。

同時開催「未来への収蔵品」

直理町地域おこし協力隊として活動しているアーティストの藤原真由氏、久保田沙希氏は2022、2023年に郷土資料館で作品の展示をし、今期も展示を行います。直理町で暮らす中で出会った人・風景・歴史をも感じたいことと大事にしたいことをアーティストという形で表現するプロジェクトに取り組み、今回の展示ではそのプロジェクトの過程を共有する場としています。

プロジェクトを通して「今の直理町」を見ていく視点で、「この先もしかりた郷土資料と呼ばれるようになるかもしれない、未来の収蔵資料になるかもしれない」ということを思い、ぜひ皆様の身近な暮らしの中にあるかきめを展示から感じてみてください。

→収蔵品の中にも動物のぬいぐるみ(真由の布「演劇」) 動物のぬいぐるみ、ワンダーランドの動物展覧会

◆期間中の休館日
2月26日
3月4・11・18・20・25・29日
4月1・8・15・22・26日

◆駐車場
館裏側の北側にあります。

直理町立郷土資料館 〒989-2351 宮城県直理郡直理町字西郷140番地
Tel 0223-34-8701 URL: <https://www.town.watarimiyagi.jp/>

Instagram

直理町地域おこし協力隊 KEKA BOOK 協力隊だより

地域おこし協力隊として町に暮らし、それぞれの拠点から町おこしに取り組み、隊員たちの日々の活動をお届けします。

曲任雅貴の SNS

久保田雅貴 直理町立郷土資料館 学芸員

「収蔵資料展」観覧のご案内

期間：令和6年2月24日(土)～5月12日(日)

収蔵資料展は、郷土資料館に収蔵されている資料を常設展示ごとに一括展示する展覧会です。

今回の展示資料は、令和2年度に寄贈された資料107点です。直理伊達家史伊達邦彦の書や衣食住に関する資料、小中学校で使用された教科書や卒業アルバムなど皆様の暮らしを伝える品々も展示します。

直理伊達家の歴史を伝える品々や、人びとの生活を伝える品々もつとむのなつかしい品々から現在との違いを見つけ、楽しみながらご覧ください。

同時開催「未来への収蔵品」

直理町地域おこし協力隊として活動しているアーティストの藤原真由氏、久保田沙希氏は2022、2023年に郷土資料館で作品の展示をし、今期も展示を行います。直理町で暮らす中で出会った人・風景・歴史をも感じたいことと大事にしたいことをアーティストという形で表現するプロジェクトに取り組み、今回の展示ではそのプロジェクトの過程を共有する場としています。

プロジェクトを通して「今の直理町」を見ていく視点で、「この先もしかりた郷土資料と呼ばれるようになるかもしれない、未来の収蔵資料になるかもしれない」ということを思い、ぜひ皆様の身近な暮らしの中にあるかきめを展示から感じてみてください。

→収蔵品の中にも動物のぬいぐるみ(真由の布「演劇」) 動物のぬいぐるみ、ワンダーランドの動物展覧会

◆期間中の休館日
2月26日
3月4・11・18・20・25・29日
4月1・8・15・22・26日

◆駐車場
館裏側の北側にあります。

直理町立郷土資料館 〒989-2351 宮城県直理郡直理町字西郷140番地
Tel 0223-34-8701 URL: <https://www.town.watarimiyagi.jp/>

広報わたり (4月号)

Instagram post showing the exhibition space and a photo of the curator.

直理町地域おこし協力隊 KEKA BOOK 協力隊だより

地域おこし協力隊として町に暮らし、それぞれの拠点から町おこしに取り組み、隊員たちの日々の活動をお届けします。

曲任雅貴の SNS

久保田雅貴 直理町立郷土資料館 学芸員

「収蔵資料展」観覧のご案内

期間：令和6年2月24日(土)～5月12日(日)

収蔵資料展は、郷土資料館に収蔵されている資料を常設展示ごとに一括展示する展覧会です。

今回の展示資料は、令和2年度に寄贈された資料107点です。直理伊達家史伊達邦彦の書や衣食住に関する資料、小中学校で使用された教科書や卒業アルバムなど皆様の暮らしを伝える品々も展示します。

直理伊達家の歴史を伝える品々や、人びとの生活を伝える品々もつとむのなつかしい品々から現在との違いを見つけ、楽しみながらご覧ください。

同時開催「未来への収蔵品」

直理町地域おこし協力隊として活動しているアーティストの藤原真由氏、久保田沙希氏は2022、2023年に郷土資料館で作品の展示をし、今期も展示を行います。直理町で暮らす中で出会った人・風景・歴史をも感じたいことと大事にしたいことをアーティストという形で表現するプロジェクトに取り組み、今回の展示ではそのプロジェクトの過程を共有する場としています。

プロジェクトを通して「今の直理町」を見ていく視点で、「この先もしかりた郷土資料と呼ばれるようになるかもしれない、未来の収蔵資料になるかもしれない」ということを思い、ぜひ皆様の身近な暮らしの中にあるかきめを展示から感じてみてください。

→収蔵品の中にも動物のぬいぐるみ(真由の布「演劇」) 動物のぬいぐるみ、ワンダーランドの動物展覧会

◆期間中の休館日
2月26日
3月4・11・18・20・25・29日
4月1・8・15・22・26日

◆駐車場
館裏側の北側にあります。

直理町立郷土資料館 〒989-2351 宮城県直理郡直理町字西郷140番地
Tel 0223-34-8701 URL: <https://www.town.watarimiyagi.jp/>

Facebook post showing the exhibition space and a photo of the curator.

直理町地域おこし協力隊 KEKA BOOK 協力隊だより

地域おこし協力隊として町に暮らし、それぞれの拠点から町おこしに取り組み、隊員たちの日々の活動をお届けします。

曲任雅貴の SNS

久保田雅貴 直理町立郷土資料館 学芸員

「収蔵資料展」観覧のご案内

期間：令和6年2月24日(土)～5月12日(日)

収蔵資料展は、郷土資料館に収蔵されている資料を常設展示ごとに一括展示する展覧会です。

今回の展示資料は、令和2年度に寄贈された資料107点です。直理伊達家史伊達邦彦の書や衣食住に関する資料、小中学校で使用された教科書や卒業アルバムなど皆様の暮らしを伝える品々も展示します。

直理伊達家の歴史を伝える品々や、人びとの生活を伝える品々もつとむのなつかしい品々から現在との違いを見つけ、楽しみながらご覧ください。

同時開催「未来への収蔵品」

直理町地域おこし協力隊として活動しているアーティストの藤原真由氏、久保田沙希氏は2022、2023年に郷土資料館で作品の展示をし、今期も展示を行います。直理町で暮らす中で出会った人・風景・歴史をも感じたいことと大事にしたいことをアーティストという形で表現するプロジェクトに取り組み、今回の展示ではそのプロジェクトの過程を共有する場としています。

プロジェクトを通して「今の直理町」を見ていく視点で、「この先もしかりた郷土資料と呼ばれるようになるかもしれない、未来の収蔵資料になるかもしれない」ということを思い、ぜひ皆様の身近な暮らしの中にあるかきめを展示から感じてみてください。

→収蔵品の中にも動物のぬいぐるみ(真由の布「演劇」) 動物のぬいぐるみ、ワンダーランドの動物展覧会

◆期間中の休館日
2月26日
3月4・11・18・20・25・29日
4月1・8・15・22・26日

◆駐車場
館裏側の北側にあります。

直理町立郷土資料館 〒989-2351 宮城県直理郡直理町字西郷140番地
Tel 0223-34-8701 URL: <https://www.town.watarimiyagi.jp/>

04 来年度の活動計画

2023年度開始当初に予定していたキット制作を継続的に行うと同時に、地域の魅力を対外的にアピールできる取り組みの新規立ち上げを検討中。

2023年度

1 亘理町の魅力の発掘・情報発信
KEIKA BOOKの制作

完了

>>>

アップ
デート

日々の情報発信のあり方を再度検討して、プロセスを公開する活動は継続したい。

2 アート作品の配布による地域住民の文化醸成
(仮)亘理のくらしを楽しむきっとキット制作

進行中

>>>

継続

当初の予定通りリサーチに基づいたキットの制作を継続実施し作品化する。

3 2023年度活動成果報告
郷土資料館資料館展示「未来の収蔵品」

進行中

>>>

アップ
デート

来年度の発表の機会は適宜検討を行い、最適な形で実施。

+

新規

キットやKEIKA BOOKなどの知見を活かしてふるさと納税の返礼品となる作品にチャレンジしたい。
※関係各所との調整必要

Thank you